

北陸石仏の会々報

第 20 号
平成11年9月20日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 久世 嘉太郎

富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方

〒939-1315
電話 〇七六三―三二二―二七七二
振替 〇〇七四〇―二―一九七四

猪谷の不動様祭り

西 田 栄 一

猪谷 寶樹寺の横手から裏山に登ると、山中にボツンと不動堂が建っている。旧盆 十六日の朝、ここで行われたのは摩訶不思議と云いたい様な不動様祭りであった。

木魚がポクポク鳴り出すと、南無阿弥陀仏の称名念仏が始まったが、お祭り次第が毎年決まっているらしく、その次第一つが終わるごとに、僧侶がナンマンダブツと唱えらるると、参集した部落の人々も合掌してナンマンダブツと念仏を唱える。

それでも途中、一度だけだが不動真言が唱えられ、木魚の伴奏で般若心経も読経されたが、最後まで鐘を叩きながら南無阿弥陀仏の三礼で終わる不動様祭りであった。

参会者は年配者ばかりが十人、おまいりが終わると車座になりお供えの酒とつまみで茶碗酒になり、いろんな昔話が聴けたのは楽しかった。

大きな不動三尊石仏は、村内に居住し墓標石を刻んでいた石工が、大正三年に彫った尊像である。それまでも猪谷の村の中を流れる くらだん と呼ぶ谷川沿いに不動明王が祀ってあったが、大水で流され今もこの谷に埋まって居るといふ。

村人の不動信仰についてもいろんな話が出た。
「昔は水に悪さをする魔物が居って、その魔物から水を守ってくれる仏さんが、どうしても必要じゃった。」

「不動さんは水を護ってくださった仏であると同時に、村の人達の心の頼りどころだったんですよ。昔は、ただ手を合わせて祈るより他にしようがなかったんですよ。」と語るのは、先程読経の寶樹寺の住職であった。

猪谷山寶樹寺は、開山が室町時代永正三年というから五百年近い歴史のある古刹、昔は真言宗だったのが何時の時代にか浄土宗



に代わった。天台宗の流れから出た浄土宗だから、密教とはまんなら無関係と云うわけでは在りませんよと住職は言う。

東猪谷の集落には、この一寺だけである。

同行し、ご案内願った平井一雄さんに言わせれば、一村一宗とでも云うか、この一寺が伝統や習慣を重んじる事に熱心な浄土宗であったことが幸わいし、この土地の習俗や年中行事を昔から絶やさずに、継続してきたのだらうと云う。

風変わりだと想った不動様祭りも、この土地に生き続けてきた信仰なのであらう。

不動堂では今日も、江戸時代から庶民の間で根強い信仰を集めてきた庚申講や、さんにやさま・しんなさまの信仰行事、不動さんの日といわれる二十七日は、ご婦人連中が御詠歌を唱えに集まって来るし、集落の民間信仰の場として活用され続けているのである。

いろんな風習を伝承する山里は、丁度みそ萩が咲き出した頃であった。

猪谷の道端には、ホトケの中の仏といわれる大日如来の石仏が多く在ることでも有名な村落、この石仏の前に昔からの習慣で盆の日のお供え物があり、イチジクの葉の上に、ナス・カタ瓜・ササギ・ズイキの野菜を刻んで盛り、その上にみそ萩が添えてあった。

みそはぎは、聖霊花ともしょうらいばなとも云い、お盆の花で、今日は祖霊がこの萩の花見にやっのごさる日なのである。



第二十回例会報告

「小松・加賀市の石仏探訪」

尾田 武雄

平成十一年五月九日、会員の滝本靖士さんや加賀市の郷土史家池端大二さんの案内で、小松天満宮の十五重石塔（市指定文化財）や撫で牛石像、筆塚など初めに拝見した。

那谷寺では石川県では珍しい萬延元年の庚申の年に建てられた青面金剛（庚申）を拝見、また境内の山に点在する三十三ヶ所観音、古様な狛犬など、興味深い石造物が多くあった。寺の前には、光導上人が居たといわれる。草庵もあった。

大岩山明王寺では、青面金剛、不動明王などを拝見。富山県上市の大岩不動明王の信仰がここで垣間見る事ができた。全昌寺では、六地藏石幢を見た。真宗王国の石川県であるが、丁寧に見てみると、いろんな信仰が庶民の間にあることがわかった。



北陸石仏の会第二十回例会出席者

◇富山県

加藤 永子

平井 一雄

佐伯 安一

林 貞子

前田 英雄

小竹 一夫

深山 節代

柳沢 栄司

尾田 武雄

斉藤 善夫

平野 重二

佐伯 直昭

千秋 謙治

千秋 幸子

島倉 千春

島倉 初美

岡田 静子

◇石川県

上田 信子

滝本 靖士

坂田 孝

◇福井県

大久保まさ子

辻角 紀子

南 外志雄
嶋 留夫

久世嘉太郎

橘

龍雄



〈石仏紹介〉 10

【雨宝童子石像】

柳沢 栄司

天照大神が日向に下られた時のお姿であるという。又、大日如来の化身ともいう。右手に、金剛宝棒を支え、左手の掌に宝珠を持って立つ姿。頭上に、五輪塔を戴く童子の形なり。宝棒の代わりに、剣を突いて立つ姿にも造られる。滅多にお目に掛かれない石仏で、絵像も少ない。

恵那山頂上の恵那神社本宮脇に祀られている。

恵那山は、美濃の最高峰で、二一九〇メートル。濃尾平野のどこからでも見る事ができる。天照大神が生まれた時、その胞衣（えな・胎児を包んでいる膜、胎盤、臍帯など）をこの山に納めたという神話が残し、山名はそこに由来しているという。



北陸石仏の会第二十一回例会案内

時 月
間 日

平成十一年十月十七日 (日)

集合 午前十時三〇分

JR武生駅前

富山七・三三 福井乗り換えで武生一〇・三五

敦賀一〇・〇八

武生一〇・三五

帰りは鯖江駅より乗車

マイクロバスの時刻

集合 午前七時三〇分 JR富山駅北口

午前八時三〇分 JR砺波駅南口

午前九時三〇分 JR金沢駅西口

午前十時三〇分 JR武生駅前

出発 午前一〇時四〇分

コース当日の天候により変更することがあります。

一、興徳寺 真柄十郎左エ門の菩提寺

武生市宮谷

二、積善寺 善光寺式阿弥陀仏三尊石仏

武生市萱谷

三、本山 出雲寺派本山 武生市五分局

四、鞍谷氏遺跡 七重層塔の供養塔 武生市檜尾市

五、慈徳院 善光寺式阿弥陀仏三尊金箔石仏 武生市中居

武生市中居

六、武生市郷土資料館 信長を呪った丸瓦

武生市味真野

昼食 万葉の里公園

武生市味真野 近くに食堂があります

七、粟生寺 西国三十三観音石仏

今立町粟田部

八、鯖江市西山公園 祈りの道石仏群他

鯖江市長泉寺山

尚、池田町板垣の八幡神社前の地藏尊と石仏に水海の西国三十三観音四国八十八観音の石仏が一緒にある所の見学も考えられます。

解散 午後三時三〇分の予定

参加費 五〇〇〇円 (バス代含む)

六〇〇〇円 (富山・石川県)

◎参加連絡先 平成十一年十月十日まで、ハガキにて

事務局 尾田武雄方 北陸石仏の会まで一報下さい。

(〒九九三九一 一三二五 砺波市太田一七七〇)

(TEL 〇七六三一 三二二七 七二)

ご案内

・会費未納の方が多く困っています。年三千元です。会費未納の方に振込用紙を同封しました。早急に送金下さい。

・『富山写真館 万華鏡』No.92で道祖神が特集になりました。会員で前猪谷関所館長、土田一夫さんが「道祖神のこと」「道祖神の村の習俗」を執筆されています。一部五〇〇〇円で事務局で扱っています。またNo.85「水天の石仏」・No.88「越の狛犬」各五〇〇円です。ご利用下さい。

一冊送料一八〇円。二冊送料二二〇円。三冊送料三一〇円です。事務局までご連絡下さい。

・会員の西田さんは不動明王石仏を、滝本さんは庚申、道祖神。土田さんも道祖神を研究されています。情報があれば交換して下さい。

・会長の久世さん、南さん、伊藤さんは義賢名号を、また平井さんは光導名号を調査されています。珍しい名号があればお知らせ下さい。

・会誌『北陸石仏の会研究紀要』第三号は、近くに発刊予定です。ご期待下さい。